

## 経験は自分を支える

校長 森 和 久

10月19日に学習発表会を開催いたしました。多くの方にご参観、ご協力をいただき、まことにありがとうございました。

「学習発表会」や「学芸会」は、小学校では運動会と並ぶ2大行事として、古くから親しまれてきていましたが、昨今は授業時数の確保、準備の大変さなどの問題から縮減される傾向が続いています。2年に1回が3年に1回になったり、廃止や形を変えたりする学校が増え、本校のように毎年行っている学校は稀少です。当然本校でも、学校行事の精選、働き方改革といった動きの中、見直すべきことは見直さなければならぬわけですが、この学習発表会は、その意義の大きさから「大変だけれどもなくしたくない行事」と捉えています。

では、学習発表会にはどのような意義があるのでしょうか。この分野の研究者である佐々木正昭氏は次のようにまとめています。

- ・ 計画・運営を通じて自主性・企画性・協調性を養うことができる。
- ・ 日常の学習の集積を総合的に発表することによって、表現・鑑賞の態度・能力を高めることができる。
- ・ 表現力を身に付け磨くよい機会である。
- ・ 自己の才能の確認と自信につながる。
- ・ 引っ込み思案な生徒が人と交流したり、自己主張したりできるようになる。
- ・ 互いの内面を知り、互いの存在を見つめ直すことができる。
- ・ 仲間意識が形成できる。

よいことづくめのまとめとなっていますが、実際日常の場では得られない、凝縮された空気感の舞台を経験することが子どもたちの成長につながっていることを実感します。

例えば、「声の大きさ」です。高学年になればなるほど恥ずかしくて、人前で大きな声が出せない子が結構い

るものです。けれども本校の子どもたちは総じてよく声がでます。登校時の挨拶の声でも感じます。毎年、全校合唱や学習発表会などの「大舞台」を経験していることは大きいですし、ジェンダー・バイアスがかからない女子だけということが、よい影響を生んでいると考えます。



大学においても大舞台を経験するよさを感じています。大学入試の面接の際に、「高校時代で最も印象深いできごと」を尋ねると、相高生のほとんどが、3年生の文化祭におけるミュージカルのことを話してくれます。様々な葛藤、試練を乗り越え、自分たちでミュージカルを創り上げ、発表するという経験を高校3年の夏にできるというのは、まさに稀少なことです。多くの相高出身者を見ると、このような経験が、大学や社会に出てからの彼女たちの頑張りを支える一つの要素となっているのではないかと感じます。

さて、11月の月目標は、「自分の考えたことを守ろう」です。大舞台を経た経験が自分を支える力となるように、「自分の考えたことを守ることができた」という経験は、自分を支えてくれます。

成功体験の積み重ねは自己肯定感を生み、自信を育てるものです。そうした成功体験を得るためにも、実現が困難なミッションを考えるのではなく、まずは小さなこと、わりと簡単に実行できることを考えるとよいと思います。他の人から見たら「できて当然」ということでもいいです。自分で何かを考え、実行し、できたことを自己評価するという経験はとても有意義です。その際、保護者のみな様も「できて当然」と思わず、ぜひ肯定的に評価してあげてください。

